

会 議 録

会議の名称	第3回小金井市保健福祉総合計画策定委員会
事務局	福祉保健部地域福祉課地域福祉係
開催日時	平成29年5月25日（木）
開催場所	前原暫定集会施設 A会議室
出席者	第3回小金井市保健福祉総合計画策定委員会 発言内容・発言者名のとおり
傍聴の可否	可
傍聴者数	0人
傍聴不可等の理由等	—
会議次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健福祉総合計画及び地域福祉計画策定にあたって 2 市の福祉に関する現状と課題 3 第2回保健福祉総合計画策定委員会会議録（案）について 4 次回日程について
発言内容・発言者名 （主な発言要旨）	第3回小金井市保健福祉総合計画策定委員会 発言内容・発言者名のとおり
提出資料	<ol style="list-style-type: none"> 1 保健福祉総合計画及び地域福祉計画策定にあたって（資料1） 2 市の福祉に関する現状と課題（資料2） 3 第2回小金井市保健福祉総合計画策定委員会会議録（案）（資料3）

第3回小金井市保健福祉総合計画策定委員会 発言内容・発言者名

日 時 平成29年5月25日(木) 午後6時30分から午後8時30分まで
場 所 前原暫定集会施設 A会議室
出席者 11名

委 員 長	金子 和夫	委員		
副 委 員 長	深澤 義信	委員		
	高橋 信子	委員	宮城 眞理	委員
	羽田野 勉	委員	星野 千恵子	委員
	齋藤 寛和	委員	矢野 典嗣	委員
	宮井 敏晴	委員	藤森 寿美子	委員
	橋本 怜史	委員		

事務局	福祉保健部長	佐久間 育子
	地域福祉課長	関 次郎
	福祉会館等担当課長	前島 賢
	自立生活支援課長	藤井 知文
	介護福祉課長	高橋 正恵
	高齢福祉担当課長	鈴木 茂哉
	健康課長	石原 弘一
	地域福祉課係長	井出 信綱
	地域福祉課主任	高野 修平
	地域福祉課主任	中川 法子

委託事業者 株式会社 生活構造研究所

◎**地域福祉課長**：定刻を過ぎましたので始めさせていただきます。本日は、山極委員よりご欠席の連絡をいただいております。

昨年度は、計画策定に向けたアンケート調査にご協力いただきましてありがとうございました。アンケート調査報告書も無事完成し、皆さまに配布させていただきました。調査報告書は、各課や社会福祉協議会のほか、ホームページにも掲載しております。

4月1日より、管理職の変更がありましたので、ご紹介いたします。

(管理職挨拶)

それでは、お手元の資料の確認をさせていただきたいと思います。

(資料確認)

ここから委員長に司会をお願いしたいと思います。

1. 保健福祉総合計画及び地域福祉計画策定にあたって

◎**金子委員長**：それでは、次第の(1)について、事務局よりご説明お願いいたします。

◎**事務局**：(資料1「保健福祉総合計画及び地域福祉計画策定にあたって」説明)

◎**金子委員長**：スケジュール、計画の背景と目的、地域福祉計画の位置づけについてご質問等がありましたらお願いします。

◎**事務局**：来年度は小金井市社会福祉協議会の地域福祉活動計画も策定されることになっています。市と社協の計画は車輪の両輪となっており、市計画が理念的なこと、社協計画は具体的に取り組む内容を記載し、相互に協働して地域福祉について取り組むこととなります。

◎**高橋委員**：社協の計画はどこかで見られるのでしょうか。

◎**深澤副委員長**：社会福祉協議会でお貸しすることができます。

◎**金子委員長**：平成17年の計画と平成24年の計画にはどちらも「安心」という言葉が基本理念や基本目標に入っていましたが、今回の策定のコンセプトの一つにも「安心」を入れた方がよいのか、市の方針としてはいかがでしょうか。

◎**事務局**：「小金井市しあわせプラン」(第4次小金井市基本構想・後期基本計画)が平成32年度までの計画となっており、その中の福祉分野の目標が「誰もが安心して暮らせる思いやりのあるまち」となっております。基本計画の下に保健福祉総合計画が位置づけられていることを考えますと、平成32年度までは、保健福祉総合計画でも目指すべき目標になると考えております。

2. 市の福祉に関する現状と課題

◎**金子委員長**：市の福祉に関する現状について事務局から説明をお願いいたします。

◎**事務局**：(資料2「1 市の福祉に関する現状について」説明)

◎**金子委員長**：市の福祉に関する現状についてご説明いただきました。これについてのご質問等はいかがでしょう。

◎**矢野委員**：小金井市は二世帯世帯の家族構成が多いようですが、親を子が1人で介護する問題がよくニュースになります。二世帯世帯の構成を障がい者や高齢者の介護の問

題とクロスして見ていかないと、施策の方向性を見誤ると思います。その分析を、資料提供も含めてどのようにしていったら良いかと思っています。

◎事務局：アンケート調査では、世帯の状況について年齢別の集計結果を出しています。市全体の二世帯世帯とその中の障がい手帳所持者数は、すぐには出せないかもしれませんが。ちなみに、一般市民調査でご回答いただいた1人暮らしの人の状況については、若い男性と高齢の女性が多くなっています。65歳以上の男性が少なくなっており、男性が亡くなり、残された女性が1人暮らしをしているという傾向があるかと思っています。

◎矢野委員：障がいがある方が50～60代になろうとしていて、その親が75歳や80歳で、肢体不自由なので介護ヘルパーを入れなければならない状況や、親御さんに認知症の傾向が出てきていて、親御さんにも介護の手を差し伸べなければならないような状況が、今、全国的に出てきています。小金井市でも、介護分野と障がい者分野が連携して情報共有していかないと、後手にまわるのではないかと思っています。

もう一つは、人口動向のところで、小金井市の世帯と人口が毎月ホームページに出ているので、年齢別と町別人口を計算してみたのですが、地域的な偏りがあります。外国人の集計をしたら、緑町と中町に結構集中しています。多分、大学に関係している人たちが住んでいるのか、企業の関係で集中しているのかと想像しますが、防災とかの配慮をしていく時に、そういう地域にはどういう風にしていったら良いかとか、色々考える余地があります。また、人口にかなり差があるので、多分緑町とか中町は畑とか緑地が多いから、人口密度が少ないと思います。せっかくデータがあるので、そういうことを丁寧に色々クロスして見た方が良いと思います。家の状況を見ても、持ち家の人は小金井市に長く住む人たちが多く、賃貸は学生中心だろうとか、世帯構成からも保育園の問題など、色々考えられます。

◎金子委員長：母集団があまり多くない場合、クロスをかけすぎると、実数とパーセントでかなり違ってきてしまうことがあります。皆さんは「このあたりの地域はこういう雰囲気」などとお分かりと思うので、それで当たりをつけながら検討していった方が実効的ではないかと思っています。

◎宮城委員：私たちの自治会でも、今まで気づけなかった、高齢者同士で四苦八苦していることを感じます。高齢女性の独居が多いことについては、施設の入居者に男性が多いことも関係しているかと思っています。施設の介護者も男性が増えています。一概に、早く亡くなるからいけないわけではないのではと思います。

◎金子委員長：外国人の数は分かりますか。

◎事務局：住民基本台帳から分けて出せます。地域ごとの数も分かります。

◎金子委員長：外国人が多い地域では、避難の際に呼びかける言語の問題などもあり、聴覚障がいの方が多いところでは、どうコミュニケーションをとるかという問題があるので、その辺も調べていただければと思います。

◎羽田野委員：外国人の構成としては、どこの出身が多いのですか。

◎事務局：中国、韓国が多く、ブラジルは少ないです。

◎金子委員長：外国人は同じ国の人が集まって暮らしていることも多いですが、中央線沿線は居住費が高いので、簡単には集まって住めないと思います。

◎金子委員長：先ほどの説明の中で、小金井は健康寿命が長いという話がありました。

厚労省では重視していますが、農園など、趣味を持っている方は健康寿命が長いと聞きます。

◎事務局：：多摩地域の中ですごく長いわけではないですが、都の平均よりは長いです。

◎齋藤委員：小金井は昔から寿命自体が長く、研究対象にもなっていたそうです。

◎宮城委員：野川公園には朝からたくさんの高齢の方が集まっているので、意識だけでなく環境も関係しているのではないかと思います。

◎金子委員長：生活保護関係はいかがでしょうか。

◎事務局：：保護数は増えていますが、他市と比べて飛びぬけて保護率が高いというわけではないと思っています。

◎地域福祉課長：平成29年度の保護数を見ると、前年より増えてきています。そのため、ケースワーカーが苦勞しているという状況は、報告させていただきたいと思います。

◎齋藤委員：区部で生活保護を受けていても、収容施設が小金井市の東町や中町にあるという人もいます。そういう人は統計に反映されません。小金井市に住民票がない人もいます。

◎福祉保健部長：施設が多い自治体が保護費を負担すると、その自治体の財政を圧迫するので、住民票の有無にかかわらず、最初に申請を受けて保護した自治体が責任を持って保護費を支給することになっています。

◎高橋委員：医療券はどこから出すのですか。

◎齋藤委員：実施主体の自治体です。そのため申請がとても面倒です。

◎矢野委員：調査のまとめのところで「様々な年代の人が集まれる居場所づくりなど、地域交流に取り組む必要がある」とされていますが、具体的に施設や人材の確保方法まで踏み込んでおかないと、計画が立たないのではないのでしょうか。公民館などの集会施設で足りるのか、それとも違う観点で拠点を作るのかを明らかにしたほうが良いと思います。私は貫井南町に住んでいますが、空き家が結構あり、多分高齢の方で長期入院をしていて、空き家になっている家が何軒かあります。市として借り上げて地域の拠点づくりをするという施策を掲げられるのでしょうか。

民生委員がパイプ役になるのではと思いますが、未充足の地域もあり、民生委員だけに地域の見守りの負担を負わせるわけにはいかないと思います。元気な人が集まって何かできる場所を積極的に作り、そこに自治会が絡むとか、そういう取り組みをしていかないといけないと思っています。調査結果を見ると、若い人は近所づきあいをしていなくても満足度は高い人が多く、根が深いと思います。世代を超えた交流を掲げるには、相当本腰を入れないといけないと思います。前の計画にも似たようなことを書いているので、この5年間の評価との整合性もとても大事になってくるのではないのでしょうか。

◎金子委員長：前計画の評価やサロンの位置づけを含め、この後も3回にわたり検討しなくてはいけないと思います。では、アンケート調査のまとめと国の動向についての説明を事務局にお願いしたいと思います。

◎事務局：：(資料2「2 アンケート調査のまとめについて」「3 国の動向について」説明)

◎金子委員長：続けて、矢野委員から事前に出ている質問への回答をお願いします。

◎事務局：生活困窮者の状況については、経済的困窮の経験があると回答した方の職業を見ると、非正規雇用、自営業、学生が多いです。18～29歳・男性・非正規雇用の方に、食料が買えなかった、ガス代の未払いがあった、病院に受診できなかった、進学をあきらめたなど、複数に回答している方が多いという特徴が出てきています。

住宅状況については、国勢調査を見ると、小金井市では、年齢が上がるほど持ち家の割合が高くなります。65歳以上の夫婦では9割近いですが、市民全体では50%未満です。マンションの持ち家率は若い方が高く、年齢が上がると一戸建ての持ち家率が高くなります。

近所づきあいと満足度については、基本的には、近所づきあいが多いと満足度が高くなります。特に65歳以上の方はそうです。65歳以下だと、ほとんどつきあいがなくても満足している人が増えてきています。1人暮らしの方の方が、ほとんどつきあいがなくて満足しており、家族と住んでいる方の方が、近所づきあいがあって満足している率が高いという状況です。

◎地域福祉課長：市民ニーズを把握していき、将来を見据えた計画策定に向けて、計画の素案を皆さんにお示しするなかで、様々なご意見をいただきたいと思います。なお、地域バランスのとれた施設の配置を考えるに当たっては、施設の総量の抑制が市の方針なので、それを踏まえるべきですが、現在、福祉と健康の推進拠点として「(仮称)新福祉会館」の建設に向けて鋭意検討しているところであり、平成33年の竣工を目標に進めていることも報告したいと思います。

アンケートの自由回答の全文については、委員の皆様にお渡しできるよう準備を進めています。

◎矢野委員：自由回答について、報告書では多い意見は集約して、代表的な意見が載っていると思いますが、少ない意見でも、僕らが見たら大事な意見かもしれないので、全部をオープンにしてもらった方が良いと思います。実は、自立支援協議会で差別禁止条例を検討しているなかで、合理的配慮の事例をこのアンケート調査から集めたいという意図がありました。

◎事務局：障がい者手帳をお持ちの方の基礎データは自立支援協議会へお伝えします。また、現計画の施策の状況については次回お渡しできると思います。

◎金子委員長：では、皆さんの日頃の活動を踏まえて、ご意見をお願いします。

◎宮井委員：今月13日に、社協の呼びかけで地域包括支援センターの方や、ヘルパーさん、一般の方、子ども食堂をやっている方などが集まりました。私は商店会の副会長をしているのですが、話し合いで多く出たのは、商店街などに、色々な人が集まれて、子ども食堂もできるようなスペースを確保して欲しいということです。そうすれば、地域とのつながりができ、活動も広がっていくのではないかという意見でした。私たちの商店街は古いのですが、25店舗くらいで、やっているのは70歳以上の人ばかりです。住宅と店舗を兼ねているところが多いので、店をやめてもそこを貸し出さず、どんどん寂れていくのですが、核になるものができれば多少でもうまくいくのかなと思っています。

街路灯は商店街が設置しているので、街路灯を無くさないためにも商店街を無くさな

いで欲しい、という声も出ていました。

◎**藤森委員**：避難行動要支援者名簿について、初めて知ったのですが、民生委員には配布されているのですか。

◎**地域福祉課長**：モデル地区の6自治会と協定を結んでいて、合意した方だけの情報をお渡ししています。自治会によって取組みは様々で、名簿の管理のみをされているところもあれば、個人に対する個別のプランを作っているところもあります。協定を結ぶ自治会を増やしていきたいのですが、なかなか取組みが進んでいない状況です。また、民生委員には渡しています。

◎**藤森委員**：そうしたことをどのように周知していけば良いかと思いました。

◎**金子委員長**：誰が誰を助けに行くかを具体的に決めておかないと、いざとなると全然機能しないと思います。

◎**宮城委員**：「地域の力」をつけていこうと色々なところにあります。「地域の力」の一つとして自治会がありますが、機能するのが難しい状況にあると先ほどおっしゃっていました。私も、なる人がいなくて自治会長になりました。民生委員との関わりは引き継がれていなくて分からないのですが、民生委員の方に知恵をいただきたいと思っています。皆さん色々な情報が分からないので、地域の寄り合いを作るのであれば、市の方が出てきて、デイサービスの種類など、きめ細かく情報を教えて欲しいです。

自治会で災害時の対策を考えることに決めたのですが、現実には皆に浸透して良かったという市内の成功例を教えてくださいたいです。理念も大事ですが、実践的な知恵をいただきたいです。

◎**齋藤委員**：地域包括ケアシステムの構築ということで、医療と介護のネットワークができつつあります。例えば薬局が高齢者を見守り、危なそうな人を地域包括支援センターに連絡するといった支援体制もできつつあります。地域包括ケアシステムは、障がい者や子どもも含めて、共生社会を作るためのツールなので、そうした職域のネットワークを利用し、ネットワークを強めていけたらと考えています。

◎**矢野委員**：国が「我が事・丸ごと」として、地域住民を柱とした地域再生・地域教育をという旗印を上げたが、財政的な支援も含め、国や自治体の支援がないと成り立たないのではないかと考えています。アンケート調査でも、自分の住んでいる身近なところに拠点が必要と言っているのが、福祉会館を拠点にネットワークを作り、地域のたまり場としての拠点を作っていく必要があります。そこへ行政が積極的に関わることを施策として打ち出さないと、手伝う人は集まらないのではないのでしょうか。「地域でやりなさい」だけではすまないと思います。

そういう意味では、アンケートの意見を拾うのは大事です。前回計画にも書いてありますが、成功点、失敗点が明確になっていないと、次の施策に反映できないのではないのでしょうか。

◎**金子委員長**：財政的にできないこともあると思いますが、我々が計画を作って下から盛り上げて行って、それに対して、市に力があるなら対応して欲しいし、何も動きがないことについては、市の施策の進捗状況の検討が必要だと思います。

◎**矢野委員**：重点施策があれば、それを根拠に財政出動もできるので、そういう政策提言ができればと考えています。

◎金子委員長：メリハリをつけて計画作りをしていく必要があると思います。

◎深澤副委員長：今出ている課題は、社会福祉協議会が担う部分がかなりあると思います。保育園で地域懇談会をやったのですが、地域の問題は地域で解決するという前提でやりました。市の政策の中で、社協の位置づけがあると動きやすくなると思います。

◎星野委員：民生委員をやっています。名簿についてですが、75歳と80歳になられたお宅を必ず訪問することになっていて、ネットワーク作りを行っています。

お年寄りで、何かあった時に頼れる相手がなくて不安という方にネットワークに入ることをお勧めし、名簿を民生委員と市役所で共有し、見守りをしています。また、災害時に支援が必要な方の名簿作りもしています

サロン作りについてですが、熱心な方もいますが、場所がないので、東センターなどをお借りしてやっています。空き家が活用できるかもしれないと思いました。民生委員はボランティアで家庭の隙間を縫って活動しているのですが、できるかぎり意見交換など協力していきたいと思います。

◎宮城委員：民生委員はどういう割合で配属されているのか教えていただきたいです。高齢者の情報が自治会には回ってこないの、会費を集める時に、高砂会に情報を渡すためという理由で、高齢の方の状況を聞いています。横の連携の中で、自治会の立ち位置が分からないので、これから話し合いたいと思っています。

◎金子委員長：民生委員は人口割りで、1人当たり600～800世帯を担当しており大変なので、都民連としては、班体制を組んで自立させてほしいとしています。欠員もありますが、協力委員も活躍してくれると思います。民生委員は民生委員法で機密の保持ということも決められていますので、難しいところです。時間もだいぶ経ちましたので、次に進みたいと思います。

3. 第2回保健福祉総合計画策定委員会会議録（案）について

◎金子委員長：第2回の策定委員会の会議録について追加・訂正はありますか。それでは、ご了承いただいたということにします。

4. 次回日程について

◎金子委員長：ここからは司会を事務局の方に戻させていただきます。

◎地域福祉課長：皆様多数の貴重なご意見をいただきましてありがとうございました。

次回の日程は平成29年7月20日の木曜日を予定しています。現時点でご都合の悪い方はいらっしゃいますでしょうか。では、次回の第3回策定委員会は平成29年7月20日（木）午後6時30分に開催いたします。会場は、第二庁舎8階にございます、801会議室を予定しております。